

知的障害特別支援学校における初任者指導の実践

～教示に対する反応率に焦点を当てて～

○村浦 新之助

（埼玉県立川越特別支援学校・東京学芸大学教職大学院）

KEY WORDS: 知的障害特別支援学校 初任者研修 称賛

I. 目的

初任者研修は、新規採用された教員（以下「初任者」という。）に対して教育公務員特例法第 23 条に基づいて実施されている研修である。初任者研修は、所属校で行われる学校研修と、教育センター等・企業福祉施設等で行われる機関研修に分けられる。

筆者は拠点校指導教員という、学校研修を企画運営する立場として、その一環として初任者の授業づくりについての指導・助言を行った。授業づくりにおいては応用行動分析学における「先行事象・行動・後続事象」の三項随伴性の枠組みを基本とし、きっかけとなる教室環境・指導環境（先行事象）、授業の中で標的としている学習（行動）、結果として利点が生じているか（後続事象）を観点とした。学習活動を行う際には、正誤のフィードバック、取り組んだ過程への評価、称賛等がとても重要になってくることは言うまでもないことである。

本実践報告では、初任者が児童生徒の反応に対してどのように対応しているかを観察し、その内容を指導・助言していった中での初任者の変容を報告する。

II. 方法

対象: A 県にある 1 つの知的特別支援学校初任者 5 名（所属：小学部 3 名 中学部 1 名 高等部 1 名、経験年数：新卒 3 名 臨時的任用経験者 2 名）である。

期間: 20XX 年 6 月～20XX+1 年 3 月の内 7 日間とした。

標的行動: 初任者の正誤フィードバック・社会的称賛を含む仮定の強化子の提示・誤答時の代替行動やプロンプトレベルを上げての再提示（以下「称賛行動等」とした）。

手続き: 初任者の授業を参観もしくは ICT 機器にて撮影したものの 20 分間の中での称賛行動等を記録し、数値を踏まえた上で初任者と打合せを行った。その際は 50%未満の反応率を低反応率とし、低反応の際は「同教室内のモデルを伝える」「具体的な反応場面を伝える」「実際の反応についての称賛」を初任者に伝え、50%以上については「実際の反応についての称賛」を主として行った。また、社会的称賛が効果的でない場合でも社会的称賛を同時に提示していくことが重要であるとされているため、基本的には音声言語での称賛はしていくように伝えている (Miltenberger, 園山他訳 2006)。指導・助言の際には、教室環境等の先行事象や授業の中で標的としている学習についての助言も併せて実施しており、標的としている学習については特別支援学校学習指導要領を参考にしている。称賛行動等の記録を取っていることについては、筆者が弁別刺激になることを防ぐために初任者には伝えずに行った。また、年度の途中で応用行動分析についての研修を行いその中で強化原理についても触れている。

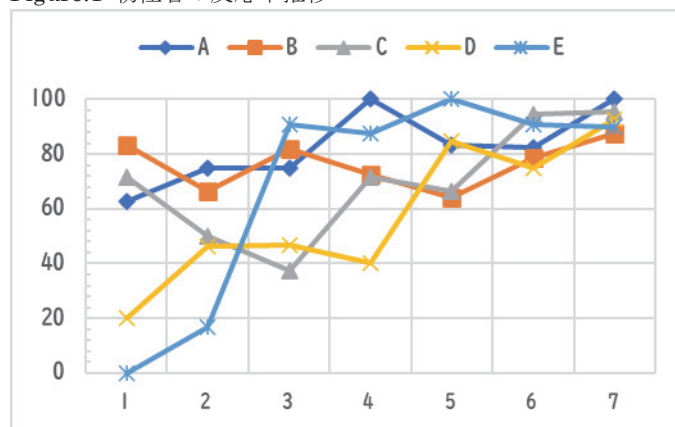
倫理的配慮: 筆者の所属する学校長及び 20XX 年度初任者に本実践報告の許可を得ている。

III. 結果及び考察

Figure.1 は初任者の教示に対する称賛行動等の反応率の推移である。縦軸は称賛行動等と教示回数の百分率、横

軸は期間内の参観もしくは撮影された映像を確認した回数であり、A～E は初任者 5 名を表している。ここから初任者 5 名の反応率が 87.5%～100%までの上昇していることがわかる。

Figure.1 初任者の反応率推移



統制された条件下ではないが全体を通して反応率の上昇が見られた。しかし、正誤フィードバックと社会的称賛を含む仮定の強化子の提示もしくは誤答時の代替行動の提示と、個々の反応を見ると減少が見られるケースもあり、両方とも提示できることが望ましい。また、本実践の記録方法だと誤答時に代替行動やプロンプトレベルを上げて再提示するだけでも反応率は上昇するが、誤答の回数に関しては大きく変化することはなかった。初任者へは 3 月末に個々のデータとともにフィードバックをしたが、称賛行動等について記録を取られていることは気付かれていなかった。

本実践は年間の中の 7 回の記録であり、筆者からの指導・助言だけでなく、初任者自身の習熟や他からの指導等、様々な変数が働いている中でのデータではあるが、年間を通しての成長が伺える結果となった。称賛だけで児童生徒が学習をする訳ではないが、ポジティブな方法で授業づくりや児童生徒との関係性を築いていき、児童生徒の変容が教師としての強化子になっていくようにポジティブな循環が行われていくことが大切であると考え。学校現場での限界はあるが、同单元内での変容等ある程度統制された条件下での実践も必要である。

IV. 文献

- 1) Miltenberger, R.G. (著) 園山繁樹, 野呂文行, 渡辺匡隆, 大石幸二 (翻訳) (2006) 行動変容法入門 二瓶社
- 2) 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編、自立活動編

(MURAURA shinnosuke)